

私たち

“動物園アドバイザー”です！

現在進行中の動物園の整備では、甲府盆地特有の気候に配慮し、動物たちがより快適に過ごせる環境の中で動物たちの魅力を最大限に引き出すために、3名の専門家にアドバイザーとして参画していただいています。

3名から専門的な意見をたくさんいただき、工夫を凝らしながら動物園づくりが進んでいます。令和7年度も引き続きチーム全力で取り組んでいきますので、どのような動物園になるのか、お楽しみに♪



札幌市立大学
デザイン学部教授
齊藤 雅也 さん



野生生物生息域外保全
センター代表理事
本田 直也 さん



山梨県動物愛護指導
センター所長
浅山 光一 さん



リニューアル工事のため、動物園は休園しています

休園中の動物たちの様子や最新の情報は
こちらから▶

ホームページ



Facebook



X



Instagram



YouTube



とびだせ！市民レポーター！

楽しみながらスキルアップ！『手話塾』

「ろう者と話してみたい」「覚えた手話を生かしたい」「もっと手話を上達させたい」と思っても、そうした場を見つけるのは難しいですね。甲府市には、ろう者と直接会話ができ、手話のスキルアップを目指す場、『手話塾』があります。実際に訪れてみました！



▲取材時は、講師のろう者1人と聴者(聞こえる方)9人が参加していました

手話で話したり、笑ったり、和気あいあい！

毎週金曜日の19時から20時30分まで、北新にある聴覚障害者情報センター内の会議室で開催されている手話塾。手話学習用のDVDを見ながら、分からない



▲この日は「山梨手話を知ろう」というDVDを上映。手話にも方言があることを知り、受講者は大盛り上がり！

手話をすぐに質問できたり、冗談を交えたやりとりもあつたりと、和気あいあいとした雰囲気でした。手話塾に参加するには、まず手話奉仕員養成講座を受け、基本的な知識を身に付けることをお勧めしているそうです。

聴者に聞いた手話塾の魅力

手話塾では音声を使わず、日本手話*を使用しており、“通じる力を育む”ことを大切にしているそうです。

受講者からは、「講師との距離が近く、手話を通して生活や歴史などを知るのが楽しい!」、「ろう文化を知ることができる」、「手話のことは遊びがおもしろく、笑いが絶えない」などのお話を伺うことができ、手話塾が多くの方に親しまれていることが分かりました。

*日本手話…手や指だけでなく、顔や肩の動きも重要な要素とする視覚言語

手話奉仕員養成講座

毎年5月から翌年3月まで開催する手話講座。令和7年度の募集は『広報こうふ』4月号に掲載予定です。詳しくは、障がい福祉課までお問い合わせください。☎055(237)5240

▶『広報こうふ』令和5年11月号の市民レポーターのコーナーで、深澤さんが取材しています。こちらも併せてご覧ください！

手話を通して交流の輪を広げる

手話塾は、甲府市聴覚障害者協会によって2000年に立ち上げられました。役員であるろう者(約14人)が講師となり、手話で会話をしたい・学びたい聴者と交流し、コミュニケーションの幅を広げる



▲お話を伺った保延さん

ことを目的としています。初心者向けの“ユースコース”、中級～上級者向けの“アドバンスコース”、手話通訳者限定の“プロコース”の3コースがあり、講師2人が交代で指導や交流をしています。講師の保延浩貴さんは、「昔と比べてろう者への理解は深まっていますが、まだまだ課題はあります。それらにも目を向け、理解を広めていきたいです」と語っていました。

市民レポーターブログ
もご覧ください▶

【市ホームページ】

市民レポーターブログ

検索



今月の担当レポーター 深澤 朗子

手話塾での学びは、英会話教室と同じで、街の中でろう者と出会ったときに声をかけるなど、普段の生活の中で生きてくるものだと感じました。手話塾を通じてコミュニティの輪が広がり、新しい出会いや学びがあることを期待しています。

